



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(148)

2022年12月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

二〇一八年九月六日の夜中三時、後に胆振東部地震と呼ばれた大きな地震は、震源地から五十キロほど離れた私が居住する恵み野教会でも大きな揺れを感じる出来事でした。地震が発生した直後は急いで家の状況を確認しつつ、窓を開けてまず自分たちの安全を確保しました。自分のことが終わると次には自分以外のことが心配になります。教会の方々は大丈夫か。独り身の方は今すぐ家まで尋ねた方がよい。そもそもその日は教会バザーを二日後に控えていたこともあり礼拝堂は大丈夫なのか。色々なことが頭の中を駆け巡っていたその時、窓の方に行っていた妻が急に大きな声で言いました。

ヨハネによる福音書1:9
**その光は、まことの光で、世に来て
すべての人を照らすのである。**



日本福音ルーテル恵み野教会
牧師 中島 和喜

「見て！ 星がきれい！」
いつもは町の明かりで見えていなかった星が、地震の影響で停電が起こっていたため姿を現していたのです。ちなみに、私は緊急時だったこと

ため、残念なことに私はその星空を見ることは叶いませんでした。同じ場所にいるはずなのに、星の輝きも変わらなはずなのに、私たちのあり様で光というものは見えたり見えなかったりするものなのだと改めて感じる出来事でした。
私たちが信仰を通して見る神の光もまた同じなのでしょう。光は思ったよりも光っているのです。クリスマスは何度も過ごしてきた私たちは、その光の輝きをいつの間にか小さなものにしてしまっています。でも、私たちが思うよりも光は光なのです。そのことを今一度思い起こし、喜びに満ちたクリスマスを過ごしましょう。

オンライン一日神学校に 参加して 蔵本 芳弘



九月二十三日秋分の日に、一日神学校がオンラインで開催されました。地方に居ても三鷹のキャンパスで受講している気持ちになりました。

私は新潟のぞみルーテル教会で、兄弟姉妹と共に視聴し、感想を分かち合うことができました。

湯口先生の荘厳なオルガン演奏に始まり、立山神学校長の「十字架の言葉が神の力」という主題の説教に力を与えられました。

「聖言葉には、それ自体に力がある」

「見えて！ 星がきれい！」
いつもは町の明かりで見えていなかった星が、地震の影響で停電が起こっていたため姿を現していたのです。ちなみに、私は緊急時だったこと

ため、残念なことに私はその星空を見ることは叶いませんでした。同じ場所にいるはずなのに、星の輝きも変わらなはずなのに、私たちのあり様で光というものは見えたり見えなかったりするものなのだと改めて感じる出来事でした。
私たちが信仰を通して見る神の光もまた同じなのでしょう。光は思ったよりも光っているのです。クリスマスは何度も過ごしてきた私たちは、その光の輝きをいつの間にか小さなものにしてしまっています。でも、私たちが思うよりも光は光なのです。そのことを今一度思い起こし、喜びに満ちたクリスマスを過ごしましょう。

と言われます。イエス様の言葉を知ること、即ち真理を知ること私たちが自由にされます。自由にされると同時に全ての人の仕える者に変えられます。シンポジウムでは、石居学長の司会で諸先生方の話を通して、ルーテルのミッションは「神と世に仕える人材」を育成してきたことが理解できました。「卒業生はルーテル学院のブランド」です。三十数名の卒業生の活躍が紹介されました。その中で、参院選に当選した天島大輔氏は、障がいを持ちながら、ルーテル学院大学で学び研究者になり、福祉事業を創業するなど、周囲を巻き込み社会を変えつつあります。

神学校の主題「心と福祉と魂」が大いに満ち、のびやかで実力のある学生を育てているからだと思えます。石居学長が自らキャンパスを紹介する企画は三鷹のキャンパスを知らない兄弟姉妹に好評でした。大学を身近に感じることが何よりも大事です。懇親会では六人の神学生の実習状況が報告されました。聖書の学びに真摯に取り組み、祈りを欠かさない生活ぶりがよく理解できました。全国の兄弟姉妹と分かち合うことができ感謝です。七人の後援会員から心に沁みる神学生への励まし言葉がありました。

また、タイムリーな内容の三つの講義がYouTubeでオンデマンド配信されることをアピールし、多くの人に視聴していただきました。

また、タイムリーな内容の三つの講義がYouTubeでオンデマンド配信されることをアピールし、多くの人に視聴していただきました。

「強み」で振り返っています。彼のような人材を輩出できたのは一日

「強み」で振り返っています。彼のような人材を輩出できたのは一日

私たちが応援しているルーテル学院生

神学校の近況と、今年度の後援会行事でスピーチしてくれた学部生を紹介します。

藤岡郁弥さん(福祉相談援助コース4年)は、コロナ禍にあっても挫けず、何事にも積極的に取り組んできました。大学で初めて出会ったキリスト教にも関心を持ち、近隣の教会を訪ねて聖書を学んだり、チャペル礼拝でも何度かメッセージを担当しました。その積極性とキリスト教との出会いは、大学で学んだ福祉の専門知識に加え、「誰かの役に立ちたい」とピアカウンセラーを目指す彼のこれからの働きの基盤となるでしょう。(河田)

には教育現場においてキリスト教を基とした心理援助者になりたいという目標が与えられました。その思いが今、仲間との大学院生活を通してカタチになろうとしています。(河田)

神学校の近況について

齋藤唯さん(臨床心理学専攻修士課程1年)は、大学時代から臨床心理に関する学びを続け、今春には大学院に進み、公認心理師を目指して更なる研究を行っています。彼女はキリスト教会に通う中で神様の愛を知り、高校時代

牧師養成コースの三年生は宣教研修の真っ只中です。秋の諸行事を体験し、今度はクリスマスの準備へと向かっています。説教作成や聖書会の担当などの準備のために悪戦苦闘の毎日でしょう。しかしこの体験がこれからの宝となることでしょうか。詳しくは「神学校だより」の本人たちの報告をお読みください。

同コース二年生は二名。学内での授業に加え、臨床牧会教育(CPE)にも取り組んでいます。共同作業所での

それがあまりにも自然で日常的なので世話人になる前は恥ずかしながらルーテル学院や後援会の繋がりをあまり意識せずにおりました。そしてまた、世話人になった今、あらためて後援会の活動の多さと広さに驚いています。教会の通知で「後援会」という前置きがあったはずなのですが、

神様との繋がり 後藤 礼子



東京ルーテルセンター教会には、現在ルーテル学院大学四年生の佐藤孝洋さんが神

生候補として実習に携わってください毎週の礼拝や教会活動に齋藤衛牧師と共に奉仕して下さっています。嬉しいことに過去にも多くの神学生が実習の場として教会奉仕に携わり、今日に亘り牧師として各々の教会で活躍されています。あらためて考えると神学生の方々と貴重な交流と経験を持つことも恵まれた環境にあります。経験は神学生だけのものではなく私たち信徒のものでもあります。喜びと感謝そして神様との繋がりを共有できます。

決して大々的に派手に後援会を前面に出してはいないかもしれないけれど一人ひとりの中に後援会が存在しています。地道にひっそりと個々が応援してくださっています。そして諸先輩方は後援会だけでなく世話人になった私にも支え、応援し、見守ってください。それが私たちの教会です。

今、私は次の役割として次の世代に向け後援会の存在を教会と同様、身近に感じてもらいたいと思いい「後援会」の三つの働き」をアピールしています。

- ①ルーテル学院のために祈ります。
- ②ルーテル学院のために献金します。↓気軽に献金できる献金ボックスを用意したので、ポケットの小銭を入れてください。
- ③ルーテル学院に学生を送ります。↓これが一番難しいですが学生さんが増えると喜びが増えます。教会に学生さん達が来てくださいます。牧師が増えます。どうぞお祈りしてください。といった感じです。

クリスマスの喜びを
大学・神学校へ
2022年度 募金目標額
2,500万円